

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870200217		
法人名	特定非営利活動法人 つくし		
事業所名	グループホーム つくし 1階		
所在地	福井県敦賀市天筒町8-55		
自己評価作成日	令和4年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 4年 11月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になられる前の個々の生活を可能な限りつくしにて再現し、認知症により出来なくなった事を陰ながら職員が支え、方々が穏やかな日々を過ごして頂き、残された人生を満喫していただける「終の棲家」となるべく、喜怒哀楽に満ちた環境の提供が出来る事業所となる様、力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、周囲に山や畑がある長閑なあけぼの天筒町内に位置しており、点在した住宅に溶け込んでいる。また、町内の役員も担うなど地域に根ざした取組みを行っている。事業所の外観をはじめ、畳部屋、障子、押し入れ、木の梁など内装も「和」がより意識された構造になっている。利用者が木のぬくもりや我が家のように感じることができるよう、雰囲気づくりを大切にしている。ハード面のみでなく、当初からの理念、方針、家族会運営、看取りなど利用者を第一に考えた理事長のこだわりを感じることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中で入居者の潜在能力を引き出せるよう、又、その人らしい生活が送れるように常に理念を意識しその中からその日の目標を決め「寄り添い日誌」に記載し職員との共有を図っている。また、全体ミーティングで議論し実践に繋がるよう努力している。	玄関を入ったところに理念と方針を掲示している。1階と2階のフロアには理念を掲示している。また、毎日、日勤者が理念に基づいた今日の目標を記入する「寄り添い日誌」により職員全員の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現状コロナ禍で、地域の行事やお祭り等も中止で地域参加は難しかったが、地区の廃品回収には積極的に参加させて頂いている。外出支援としてつじ祭りの食事会や市内の食事会に出掛け入居者の笑顔が見られた。又、ボランティアの方の一日体験もあり、他の地域への興味や交流となった。	地域の行事(祭り、防災訓練等)に参加していた。また、幼稚園児童を迎え入れ交流する等していたが、現在は感染症の関係により控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理事長が福井県認知症の人と家族の会に入会し、敦賀でのつどい、各市町村での講演会・研修会で事業所で得た実践経験を基に認知症の理解促進・支援方法について生かしている。近隣の方々との交流は色々な対応はしているが苦慮している。避難訓練時にはお知らせを通して協力して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、区長、組長、民生委員、市長寿健康課職員、他施設職員、御家族、理事長、管理者、介護支援専門員、職員を交えて、入居者の体調報告、行事、その他事項や連絡事項を伝え、日々の生活に生かせるよう助言等を頂いている。又、議事録として保管している。	会議は書面より対面を大事にしている。他事業所も出席し2か月に1回開催し利用者の状況報告や意見交換をしている。また、議事録をまとめ欠席者や利用者家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所として、対応に苦慮する事例や、案件が発生した場合等その都度連絡をさせて頂き、対応方法について意見具申等頂き事業所としての運営・対応に生かしていける関係を密に築いている。	運営推進会議で市職員と情報共有している。その他、外部評価の結果を報告し、必要に応じ運営などについて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はせず、深夜間は防犯の為、施錠している。全体ミーティング時、2ヶ月に1回身体拘束委員会を開き、勉強会及び反省会として意見交換し、それを2ヶ月に1回の運営推進委員会で取り上げている。本年は、不適切なケアの指摘を行政から受けその都度緊急ミーティングの開催や勉強会の開催を行い入居者の気持ちに寄り添ったケアに取り組んでいる。	身体拘束の委員会を設置し、職員は年間研修計画を企画しており、2か月に1回身体拘束に関する研修を事業所内で開催している。また、ZOOMによる会議にも参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修、新人教育等において、ホーム作成の資料により勉強会を開催し、職員の意識向上に繋げている。又、2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し、無意識の虐待ケアにつながる状況が発生していないか、していれば「なぜそうなったのか」を中心に、経過と結果を検証し無意識の虐待も防止できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の勉強会を年1回実施している。管理者や職員は、話し合いの時間を持ち、今後活用出来る様に努めている。成年後見人制度についても、社内勉強会や外部の研修会の資料を参考として権利擁護に関する制度の勉強会と共に勉強をし、その議事録で再度共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や介護保険改正等については、事業所の運営規定・重要事項説明書および入居契約書等については、管理者が十分説明を行い、疑問等尋ねその都度、御入居者、御家族に対し、口頭説明や書面での周知・承認を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や担当者会議、来所時等において、御入居者や御家族のご意見、要望を聞き、フロア会議や全体ミーティングで職員一同で話し合いをし意見を拾い介護計画書に反映したり・事業所内の設備・運営の改善に努めている。	日常的な利用者との関わりの中で意見を確認し、気が付があれば書き込むことができる「声ノート」があり活用している。家族の要望は来所時や電話連絡により定期的に確認している。また、玄関正面に意見箱を設置し、いつでも投函できる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体ミーティングで都度運営状況等について改善をお願いしたり、職員個々に意見交換できる時間帯を取り運営に反映させている。また、フロアミーティングで意見や提案を話し合う意見交換が気軽に出来る状況を作って、風通しの良い職場となるように努めている。	毎月各ユニットの職員会議と2か月に1回の全職員会議を開催し、意見や要望を確認している。日頃は「申し送りノート」に困り事など書き込む事により相談ができるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の資質を見極め、得意分野を増やすべく色々な担当業務を経験させている。また、やりがい等を向上させるべく職員連携加算3およびベースアップ加算取得に向け関係帳票を変更中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表自ら1日1回、現場に入り、職員個々の介護能力や関わりに対しての状態を把握している。個々の問題には、申し送りノートで対処している。又、年間研修(外部)はコロナ禍において、ズーム等で行っている。内部研修は月1回の全体ミーティング後に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所として、福井県グループホーム協会・敦賀市介護事業所連合会に入会し管理者、職員は開催する研修会や他事業所職員との交流の機会を作っている。又、他事業所との交流を兼ね職員を他事業所にて研修させ職員の資質向上につなげ事業所のサービス向上になる状況が有れば反映させている。 本年度は、コロナ禍において、滞っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族を交え管理者等関係職員で事前調査や、入居契約時本人が困っている事、不安に思ふ事を聴取し入居するに当たり職員に対し、書面や会議にて情報を共有し又、アセスメントシートを作成し本人の安心を確保する事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との事前調査や入居契約時においてもご家族との時間を取り現状の問題点や要望について聞き取りをし、ホームとして真意に解決に向け対応する事を話したり、安心感の定着に向け努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前のサービスを確認し、サービス開始前の状況に於いて、グループホームとして、利用可能な事業所間で調査をし安心感のある日常生活が送れるよう利用の継続を促している。また、必要としている支援がホームとして可能であれば積極的に反映する体制である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員等は家庭と同じく常に生活する者として対等に対応し、本人が出来る事をまず見極め掃除、洗濯、食事作りや思い出話し等を極力遮らず対応している。また機能低下を遅らす関わりをし、暮らしを共にしているという意識を以て日々関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム入居に於いて事業所の方針や、運営方法について十分な説明をし、気兼ねなくホームに来所して頂ける関係をまず築き、家庭の延長線上の様に来所し、居室や、リビングにて、穏やかな時間を送って頂いている。職員は、その状況をそっと見守、りご家族と顔を合わせ近状報告等をする事で、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族やご本人から、馴染みの方々へホーム入居したことが伝わりホームに来ていただいた時は、玄関でマスクを着用して頂き面会して頂けるように支援している(コロナの為)。外出については、現在はコロナの為極力控えさせて頂いている。	入居時に好みや要望などの情報を基本様式に記入している。利用者は全員が市内出身で、理容など馴染みの場のニーズに職員が対応している。また、訪問美容は奇数月第3火曜日に実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居当初は不安も多い事から他入居者との距離を縮めるよう職員は関りを多く持ったり、支援をしたりしている。また、他入居者からの関りで少しずつ関係が出来、本人の出来る事を把握し、その方自身が能力を発揮できる様に職員が声掛けを行ったり、他入居者を巻き込み一緒に行事に参加して頂いたりと多方面な関りをしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退去(死亡・他事業所入居等)され他事業所の居宅支援事業所等の管理下になられても、サービス等の情報提供をし他事業所等で困ることのないように対応している。また退去された後も、困りごとがないか近状状況等を確認し相談事があればいつでも御家族がホームに来所して頂けるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に関わる時間を作り、希望や現状悩んでいる事等本人の意向を聴く時間を持ち話す事での日常的ストレスの緩和を図りながら、情報を得ている。本人の話を傾聴し、本心を話し理解して頂くことに努めている。また、それが困難な場合には、各階のミーティングで取り上げケアの統一化を図っている。	利用者が重度化する中、日常の関わりの中で寄り添い思いを考え把握している。また、日常的な気付きがあれば書き込める「声ノート」があり活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査、入居前準備、入居契約書等のおり、御家族や御本人から情報聴取したり、前事業所等との連携を取りながら、都度アセスメントシート等の活用で御本人のリズムや好みなど常に探りながら、入居にあたっての暮らしかた等を各階のミーティング等でケアの共有を図りより良い生活となるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分な本人・家族からの情報収集を行い、御本人様の一日の過ごし方を見守り(心身状況・言動・行動)、有する能力を見極め、個人の日常生活のほり・やりがいが増え主導性をもって一日を過ごして行けるよう日々努力している。新しい事柄があれば記録に残したり、申し送りをし共有するよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族、介護支援専門員、担当三者面談にて、御家族様の意向を聞き取ったり、本人に何を望んでいるかを聴取して優先事項を選定し、毎月のカンファレンスやモニタリング実施で介護計画書に反映し支援をしている。	担当制で月に1回モニタリングを実施している。計画作成にあたり利用者・家族の意向に沿ってチームで話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で、本人の特異的な様子や、日頃言わない言葉や、対応等について生活記録に記載する様に指示徹底している。介護計画書に基づく関りや、対応を中心に記録記載をし、本人の言葉や様子は個人記録だけではなく共有すべきこと等は申し送りノートに記載し、口頭でも行い今後の介護計画の見直しに活かせるよう徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者、御家族、介護支援専門員、職員が話し合いながら、また、声ノート(ご家族、入居者の言葉ノート)に都度記載し、何が本人に一番馴染む支援となるのかを見極め、社会資源を活用したり、地域との連携が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍も沈静化してきたが、今暫く様子を見極めて従来取り組んできた各種行事等に積極的に参加し地域との連携を図るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携感を高め家族等の希望を大切にしている。家族が付き添う場事前に入居者の状況を説明し、主治医には書面にて情報提供して主治医の診察をサポートしている。受診した際は必ず通院報告書を作成し家族も連絡して家族との共有を図っている。	かかりつけ医への対応は家族にお願いしているが、場合によっては職員が対応している。受診後はシートに記載し、必要時は電話で連絡し対応している。また、月2回の訪問歯科受診など医療との連携が充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職については日常の体温測定、血圧測定、身体看護(傷・皮膚等の塗り薬の塗布)等を対応をしている。介護職との情報共有を図る実施した内容で重要な件については、申し送りに記載し、情報を共有している。常に相談できる関係作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室や主治医・看護師と良好な関係作りを密にしている。退院時、そして退院後にも本人の状況を見極め情報収集し介護支援専門員と共に適切なカンファレンスを行い、また病院主催の研修会にも参加し関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合、事業所としての対応方針を説明させて頂き、入居者様の身体状況が重度化した場合や、終末期対応状態になる前に対応方法や今後の本人の介護、看護のあり方をご家族様と事前に相談し、訪問看護事業所と連携を図っている。	看取りや重度化のマニュアルを整備している。また、医療機関との連携もあり、何人もの看取りの実績がある。事業所の姿勢として、家族の希望を聞き、可能な限り看取りに対応できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者急変時や事故発生した場合は緊急ミーティングを行い、不具合のあった所を指摘指導し改善を図っている。対策を討議し、議事録として保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策(火災・原子力災害・自然災害)では実施前に研修時間を設け職員に教育を実施、訓練についても入居者・職員全員が参加して実施している。訓練当日前に近隣の方々には訓練を実施することをお知らせにて配布してお伝えさせて頂いている。	市より避難所の指定を受けている。避難訓練は年2回実施している。夜間想定訓練も実施している。また、原子力災害訓練も行っている。備蓄は備品も含め確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所方針や、理事長の創設した思い(本人本位)を都度伝え職員目線での言葉掛けにならない様に指導している。	年間の研修計画に基づきプライバシーや尊厳に関する研修を実施している。常に利用者に適切な対応ができるよう、その都度職員に声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が現在思っている事や、希望を聞き、対応可能な事柄については対応している。 入居者自身が自己決定し日常生活を送れるよう職員指導を実施している。本人の居室・リビングでの会話対応にも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しない様心掛けている。 入居者自身が生活スタイルを構築し、自主性を引き出し日々充実した生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後は、髪を整え、自宅でお化粧されていた方は入居されてもお化粧は身だしなみと言われ現在もされている。定期的な散髪で気持ち良い毎日を過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルス感染の為、一緒に準備をする事は控えている。後片づけについては、食器拭き等実施している。	2つの業者(朝・夕と昼)から食材を購入している。以前は利用者と一緒に味噌汁等を調理していたが、重度化により現在は片付け等を一緒にしている。入居時に利用者が使っていた箸や茶碗などを持ち込んで使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援計画書に記載したり、日々の状況変化には申し送りや伝達事項として職員共有を図っている。 水分量が不足や過大にならない様水分チェック表に記載し、水分量を確認フォローしている。(15時以降で、1度トータルし記載を行っている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援計画書に記載したり、訪問歯科の助言を頂きながら毎日の口腔ケアを実施し対応を図っている。入居者個々の認知機能に差がある為、本人が不快とならない様な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して適時に声掛けをして汚染を少なくしている。オムツの使用減に繋げている。	排泄チェックシートを利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。水分摂取も合わせてシートに記録し管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防には適度な運動が不可欠。定時の体操やレクリエーション時にはレク感覚での体操を取り入れている。便秘の人には食生活の工夫、既往症の人には主治医の指示に従い下剤使用で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やそのその日の体調を見計らって入浴が楽しいと感じて頂く工夫をして入浴いただいている。入浴時には事故防止に万全を期している。	入浴日は、週2回している。ゆず湯、しよつか湯など利用者に四季を味わってもらえるよう取り組んでいる。チェア浴での対応もしている。和を意識した檜の風呂もあり雰囲気づくりに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	脳を活性化させるのに安眠や休息が効果があるとされ朝起床の早い人には午前のお茶の時間後に休息午睡を希望する人には午睡時間を提供している。 個々の生活習慣を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人ファイル化し対応している。使用は主治医の指示に従うことを厳守し服薬マニュアルを整備し万全を期している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の有する生活の質を把握し生活歴を参考しながら何を望んでいるか見極め楽しみのある生活の場を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は限られたが原子力災害訓練や土砂災害訓練の際に周辺のドライブ・レストランでの外食や地域との交流も実施している。	普段は事業所の周辺を散歩をしている。日帰り小旅行に加え、レンタカーを使用した避難訓練と併せて近隣施設へ外出する工夫をしている。	普段の散歩に加えて年間の外出の頻度を増やしていくことで、利用者の楽しみを増やしていくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出や買物は出来ていないが買物は立替が基本である。立替でも支払いは本人にして頂いている。この事で脳の活性化に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で家族や大切な人に手紙の書いたり電話をされる場合必要に応じてアドバイスをして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の人が見ている視界について不安や混乱を与えないよう工夫して居心地のよい共同空間づくりに努めている。 蛍光灯に紙覆い器具・光を柔らかくした電球を使用している。コロナ禍で外出も限られた。リビングや玄関に季節の草花を飾り季節観を感じて頂いている。	共用空間は明るく木のぬくもりある「和」の造りになっており、利用者が落ち着くことができる造りになっている。季節の貼り絵などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍で屋内での生活を余儀なくされた。窓際にソファを置いて景色を眺めて頂き、また、リビングでのテーブルの配置については個々の生活の質に応じて穏やかに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	残り少ない人生が穏やかで孤独な思いをさせないよう色々工夫している。テレビやカレンダー馴染みの家具や調度品を置いて居心地の良い家族環境づくりに努めている。	居室は障子が入っており、押入れの使用や畳敷きも可能である。また、自宅で使っていた馴染みの家具等を置いている。居室もフロアと同様に「和」であり、我が家を意識できる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーを基本とし事故防止に万全を期している。個室については個々が有する生活の質に応じて安心して暮らせる居室環境づくりに努めている。		